『過程の演習　新国語問題集』補足・解説・解答

※字に付せる数字は「明説」の頁数也。

●せりふを「　」で囲め

［22］次の文章をよく読んで、後の設問に答えよ。〈大阪市立大〉

魏文侯燕飲、皆①令諸大夫論己。或言君仁、或言君義、或言君之智也。至於任座。任座曰、君不肖君也。得中山不以封君之弟、而以封君之子。是以知君之不肖也。文侯不説。知於顔色。任座趨而出。次及翟黄。翟黄曰、君賢君也。臣聞、其主賢者、其臣之言直。今者任座之言直。②是以知君之賢也。文侯喜曰、可反歟。翟黄対曰、③奚為不可。臣聞、忠臣畢其忠、而不敢遠其死。④座殆尚在於門。翟黄往視之、任座在於門。以君令召之。任座入、⑤文侯下階而迎之。終座以為上客。文侯微翟黄、則幾失忠臣矣。

（『呂氏春秋』）

●『呂氏春秋』の呂氏とは、戦国時代末期の秦の政治家呂不韋。彼が食客を集めて共同編纂させた書物。秦の始皇帝の実の父という説もあり。

●句法・用字チェック　※字に付せる数字は「明説」の頁数也。

令　或　不肖　説　臣　是以　敗　奚為　不敢　尚　終　以為　微　幾　矣。

問１　傍線部①を書き下し文にせよ。

文侯は、己＝自分について、論じさせた。酒宴の余興めいたものだったのでは？

●――（人間）をして――（動詞）せしむ　毎度おなじみ！

●しむ（日本語の助動詞・未然形接続）は、平仮名。「論ぜ」が未然形。「論ざ」とかアカンで。「論（漢語）＋す」なのでサ変。濁ってるけど。「せ、し、す、する、すれ、せよ」

問２　傍線部②について、どのような理由で翟黄は「知君之賢」と言ったのか、わかりやすく説明せよ。

●其主＝賢者（ならば）→其臣之言＝直。　∴　今者任座之言＝直→其主＝［　　］

君主が賢明ならば、臣下は言いにくいことでも直言する（賢者は直言を受容できる器量があるから）。今、任座は（君主は愚かだと）直言した。だから、その君主であるあなたは賢者だとわかる。

←

（解答例１）君主が賢明なら、臣下は批判でも直言するが、今、任座は文侯は愚かだと直言したから。（40字）

（解答例２）任座が文侯を愚か者だと直言したが、臣下が直言するのは君主が賢君である証拠だから。（40字）

▼［比べると2がより優れている］「どのような理由で「知君之賢」と言ったのか」に対する応答としては、「臣下が直言するのは君主が賢君である証拠だから」の方が端的である。「任座は文侯は愚かだと直言したから」は、前半がないと意味をなさない。問に対する文末の対応が決め手。

問３　傍線部③を、「不可」の具体的な内容を補って現代語訳せよ。

奚（いづく）為　不　**可**。＝どうして［――が］できないか、いやできる。

●可　反　歟（か）＝任座を呼び返すことができるか（問）→できます（答）　**▼反＝返**

問4　傍線部④について、翟黄はなぜこのように推測したのか、わかりやすく説明せよ。

▼なぜの根拠↓直前（または直後）

●臣聞、忠臣畢其忠、而不敢遠其死。▼畢＝尽

・忠臣＝忠を尽くし、死を恐れず

・任座＝忠臣

∴任座は死を恐れず＝逃げない

☆構文＝**翟黄**は――と推測したから。

◎問5　傍線部⑤について、文侯はなぜこのような行動を取ったのか、本文全体の内容を踏まえてわかりやすく説明せよ。

問いの趣旨は、「王がわざわざ下りて迎えに行くという行動に（ふつうはそんなことしない）どんな思いがこめられているか」というところにある。

▼小説のときの技法を応用↓文侯の視点から、ストーリーの**変化の過程の整理**。

・愚か者と言われ不機嫌になった。

・賢君ゆえの発言と諭され、任座が忠臣であることに気づく。

・（その後）任座を上客とし、忠臣と認めたことを周知。

（・任座のような直言を受け入れるつもりであることを示す）↑直接書いてない

〔全部書いた答案例〕文侯は、（任座に愚か者と言われ不機嫌になったが、）翟黄にそれはあなたが賢君ゆえの発言と諭され、任座が忠臣であることに気づき、任座を呼び戻すことによって、彼を忠臣と認め、任座のような直言を受け入れるつもりであることを示すため。

（合格ライン答案例）文侯は、翟黄に任座が忠臣であることに気づかされ、任座を呼び戻すことによって、彼を忠臣と認めようとしたから。

（ベター）彼を忠臣と認めようという気持ちを表そうとしたから。

彼のどこが忠臣かといえば、真に王を思い、あえて直言を辞さない点だ。その後、上客に取り立てているところから見ても、「直言する家臣、おおいにけっこう」というところを周囲に示そうとした行動だと読める。

（高度な答案例）文侯は、翟黄に任座が忠臣であることに気づかされ、任座を呼び戻すことによって、彼のような直言をする者を忠臣と認めようという気持ちを表そうとしたから。

▼「彼のような直言をする者を忠臣と認めようとしたから」という中間バージョンも可。

【冊子の解答例】

問1　諸大夫をして己を論ぜしむ

問2　任座が文侯を不肖の君と直言したが、臣下が直言するのは君主が賢君である証拠だから。

問3　任座を、どうして呼び戻せないことがありましょうか。いや、呼び戻すことができます。

問4　忠臣は忠節を尽くして自分の死を恐れないと聞いているので、任座が罰を恐れて逃げ去ってしまうことはないと考えたから。

問5　翟黄の説明で任座が忠臣であることに気づき、任座を丁寧に迎えることで文侯の器の大きさを示すことができると考えたから。

諫言

忠言耳に逆らう【出典】『孔子家語（こうしけご）』

真心を込めていさめる言葉や忠告は、聞く側にとってはつらいものだから、なかなか素直に受け入れられないものだ。

［22］次の文章をよく読んで、後の設問に答えよ。〈大阪市立大〉

魏（注一）文侯（注二）燕飲、皆①令諸（注三）大夫論己。或言君仁、或言君義、或言君之智也。至於任座。任座曰、君不肖君也。得（注四）中山不以封君之弟、而以封君之子。是以知君之不肖也。文侯不説。知於顔色。任座趨而出。次及翟黄。翟黄曰、君賢君也。臣聞、其主賢者、其臣之言直。今者任座之言直。②是以知君之賢也。文侯喜曰、可反歟。翟黄対曰、③奚為不可。臣聞、忠臣畢其忠、而不敢遠其死。④座殆尚在於門。翟黄往視之、任座在於門。以君令召之。任座入、⑤文侯下階而迎之。終座以為上客。文侯微翟黄、則幾失忠臣矣。（『呂氏春秋』より）

［注］（一）文侯――中国、戦国時代の魏の君主。
（二）燕飲――酒宴を催すこと。
（三）大夫――中国における官位の一つ。後出の「任座」や「翟黄」という人物も大夫の一人。
（四）中山――戦国時代の国名。

【原文】

魏文侯燕飲、皆令諸大夫論己。或言君仁、或言君義、或言君之智也。至於任座。任座曰、君不肖君也。得中山不以封君之弟、而以封君之子。是以知君之不肖也。文侯不説。知於顔色。任座趨而出。次及翟黄。翟黄曰、君賢君也。臣聞、其主賢者、其臣之言直。今者任座之言直。是以知君之賢也。文侯喜曰、可反歟。翟黄対曰、奚為不可。臣聞、忠臣畢其忠、而不敢遠其死。座殆尚在於門。翟黄往視之、任座在於門。以君令召之。任座入、文侯下階而迎之。終座以為上客。文侯微翟黄、則幾失忠臣矣。（『呂氏春秋』より）

問１　傍線部①を書き下し文にせよ。

問２　傍線部②について、どのような理由で翟黄は「知君之賢」と言ったのか、わかりやすく説明せよ。

［目安］40 字

問３　傍線部③を、「不可」の具体的な内容を補って現代語訳せよ。

問４　傍線部④について、翟黄はなぜこのように推測したのか、わかりやすく説明せよ。

［目安］60 字

◎問５　傍線部⑤について、文侯はなぜこのような行動を取ったのか、本文全体の内容を踏まえてわかりやすく説明せよ。

［目安］60 字

【解答】

問１　諸大夫をして己を論ぜしむ

問２　任座が文侯を不肖の君と直言したが、臣下が直言するのは君主が賢君である証拠だから。

問３　任座を、どうして呼び戻せないことがありましょうか。いや、呼び戻すことができます。

問４　忠臣は忠節を尽くして自分の死を恐れないと聞いているので、任座が罰を恐れて逃げ去ってしまうことはないと考えたから。

問５　翟黄の説明で任座が忠臣であることに気づき、任座を丁寧に迎えることで文侯の器の大きさを示すことができると考えたから。